

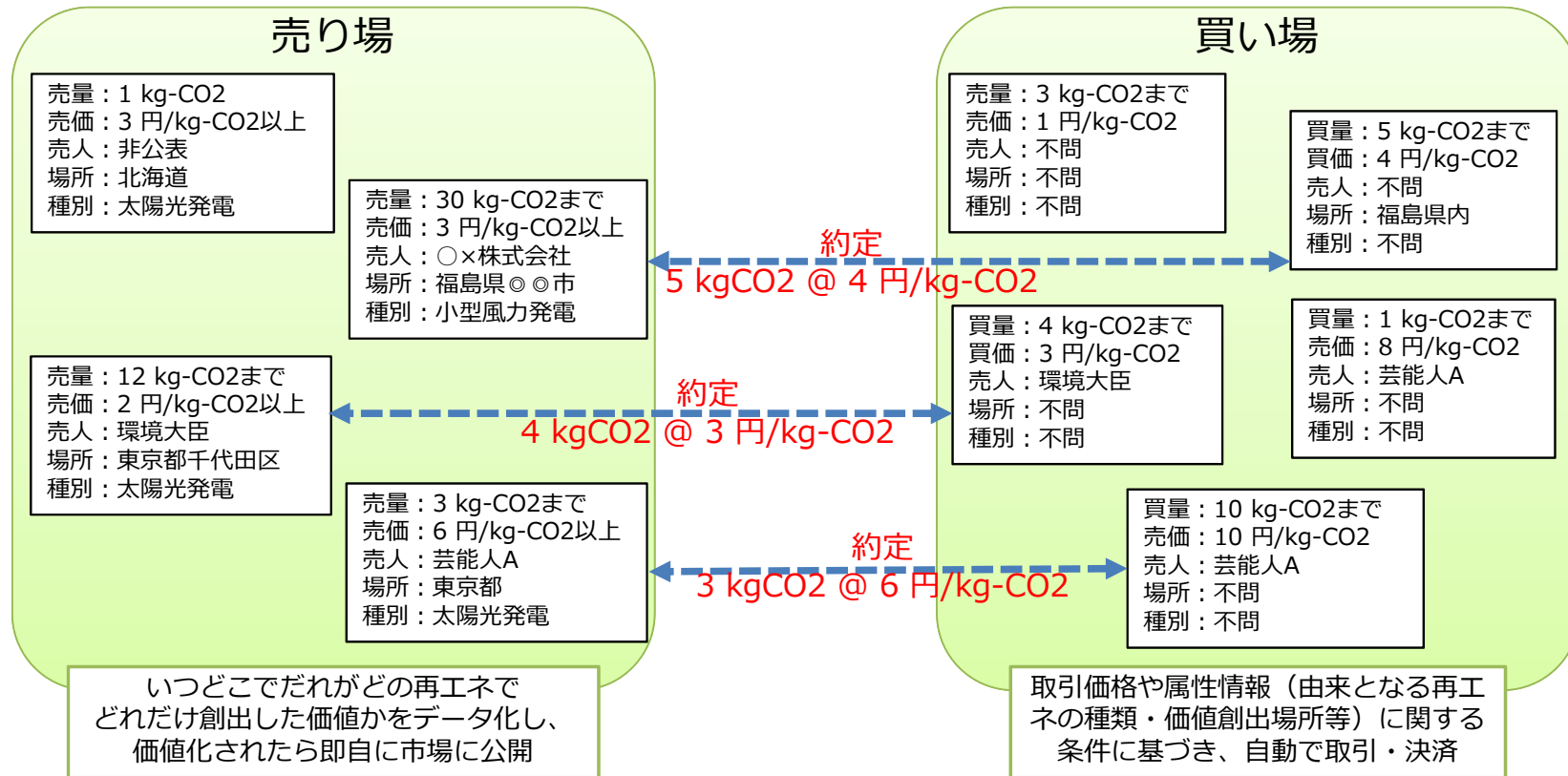
# 平成30年度ブロックチェーン技術を活用した 再エネCO2削減価値創出モデル事業

## 第1回課題検討協議会の振り返り

2018年7月4日（水）

環境省

# ブロックチェーン技術を活用したクラウド上の取引プラットフォームにおける取引内容のイメージ



- ✓ 「**再エネCO2削減価値**」→ **誰にとっても同じ価値** (CO2排出削減量)
- ✓ 「**いつどこで誰がどの再エネでどれくらい**」
  - (普遍的な)価値ではない(価値を見出す人もいれば、価値とみなさない人もいる)
  - **属性情報にすぎない** (国際的には「環境価値」ではなく「**再エネ属性 (renewable attribute)**」と呼ぶ)

**➡ 再エネCO2削減価値と属性情報の組合せで売り手と買い手の自由な取引を促す**

# 第1回課題検討協議会で挙げられた技術的課題

1. 利用者の事務手続きに係るコスト負担低減
  - ・・・小口取引にも向くように
2. 価値の評価から取引までの時間短縮
  - ・・・売買したいときにできるか
3. CO2削減価値認証に用いる電力量計と計量法の関係
  - ・・・きちんと計量できるか・計量証明の担保について
4. ユーザー・エクスペリエンス(UX)の向上・様々な価値観への配慮
  - ・・・すぐ取引 vs まとめて取引
  - ・・・再エネ属性を価値化できるか（地産地消・特定個人等）等

# ブロックチェーン技術の有効性（一般論）

- 利用者のコスト（手間・手数料）の低減
- 価値の評価から取引までの即応性
- 記録（価値償却記録を含む）の正確性・改竄が極めて困難
- 価値の売り手と買い手双方のUXの向上